

地域の「仕事」や「暮らし」を 地域で支えていきましょう

働く人と職場をつなげるワークショップのすすめ

地域における就労支援の活動は自治体の様々な部署（生活困窮者の主管部局、福祉部局、産業労働部局 etc.）や委託事業者、関係機関・団体等において、対象や課題ごとに工夫され、展開されています。

就労支援が効果的に実施されるためには、自治体や委託事業者、関係機関・団体等の皆様が、支援している対象者の姿、活用している地域資源や取組み、日頃感じている課題やアイデアなどを共有し、役割分担と連携のあり方を見直す必要があります。

そのためのひとつの方法として、「ロジックモデル」の枠組みを用いて、皆様の考えやアイデアを出し合い、お互いに気づきを得て、新たな取組みにつなげるためのワークショップを開催しませんか。

※なお、このワークショップは参加者の考えやアイデアを持ち寄り、共有することを目的としており、ロジックモデルを用いて自治体等の事業評価を行うものではありません。

このワークショップの目的と効果は？

- 就労支援の取組みや地域資源、課題について意識共有を図ることで、自治体の各部署や委託事業者、関係機関の連携を深めることができます。
- 他の部署や関係機関の取組みで活用できるものがないか、あるいは不足している役割はないかをお互いに検討し、今後の連携・共有につなげることができます。例えば、生活困窮者自立支援制度では、就労準備段階や中間的就労、定着支援などの活動（アクティビティ）が話題になります。
- 各参加者が、現時点で足りない取組み、今後取り組むべきことに気づき、次年度以降の事業等に結びつけることができます。

就労支援を必要としているのはどんな人？

- 就労支援の明確な定義はありませんが、変化する雇用環境の中で、自身が目指す就労・職業生活（キャリア）の実現に向けて、何らかの支援を要する対象者に対して行う一連の相談支援、および多様な当事者が関係する取組みであると言えます。そのため、他の部署や関係機関との連携が不可欠です。
- 就労支援を必要としている人には様々なタイプがあり、日頃の業務や支援活動の中で接している人にとどまりません。
- 生活困窮者、生活保護受給者、障害者、高齢者、ひとり親、ひきこもり、就労経験の少ない若者のほか、非正規雇用で働く就職氷河期世代の人など市役所の窓口にあまり来ない人も含まれています。
- これらの人について、行政用語では「就労困難者」と呼ばれることが多いです。最近では「求職準備者」といわれることもあります。雇用統計の「求職者」は求職活動を行っている人を指していますが、「就労困難者」「求職準備者」には、求職活動に至らず、キャリアを模索・検討中の人も含まれます。



ワークショップのプログラムは？

- このワークショップは2～3回で1セットになっています。これをきっかけに継続的な取組みにつなげていきましょう。
- 参加者の気付きを引き出すため、外部のファシリテーターに依頼することも有効です。

回数	ワークショップのテーマ	具体的な内容等
1回目	・対象者像の共有 ・就労支援の目的の設定 ・参加者による取組み・活動（アクティビティ）の共有	・参加者の担当部署、業務内容によって「就労支援の対象者」のイメージが異なることが考えられます。最初に対象者像を共有しておきましょう。 ・各参加者が、就労支援のために実施している取組みを出し合いましょう。なるべく多くの意見を出すことがポイントです。
2回目	・就労支援の目的に合わせた取組み・活動の再整理 ・足りない取組み、今後取り組むべき取組みの検討	・1回目に挙げられた取組みを就労支援の目的にあわせて整理してみましょう。 ・この作業によって地域の取組みが一覧できるようになるので、取組みの重複、足りない取組みなどを検討します。
3回目	・地域資源（インプット）の共有 ・各参加者の今後の取組み、役割分担についての話し合い	・これまでに挙げられた取組み・活動から優先度の高いものを選び、その実現に向けて協力してほしい団体・機関の名称を具体的に共有しましょう。 ・参加者間の役割分担、情報共有や連携の進め方を確認し今後の取組みにつなげます。

【オンラインによる開催について】

※オンライン開催はメリットもありますが、実施の工夫や気配りも必要です。

<メリット>

- 距離や時間を気にせず参加しやすくなります。（忙しい人たちにも参加してもらいやすくなるのが最大のメリットです。）

<注意点・工夫>

- 事前にオンライン会議ツールの接続テストをしておきましょう。
- PCとタブレット、スマートフォンでは、できること(機能)が違う場合があります。
- 複数の人が同時に発言しにくいので、司会者が発言の交通整理をしましょう。
- オンラインでも、意見は付箋紙に書いてもらった上で読み上げてもらうと、簡潔にまとまりやすいです。

就労支援ロジックモデル ワークショップ：ワークショップ参加にあたってのお願い

- ワークショップ中は、カメラは原則オン、ご発言の際にはミュートは解除（マイクをオン）にしてください。（ご発言されない際はミュート状態で問題ございません。）
 - ・ 通信環境のよい場所で、カメラ・マイク機能が使用可能なパソコン・タブレット・スマートフォン等でアクセスをお願いします。
 - ・ 通信不良により音声のやり取りに障害が生じる場合は、カメラをオフにしてくださいと改善する場合がございます。
- ワークショップに参加される際のお名前は、「所属土お名前」をお願いします。
 - ・ お名前の変更は、[参加者]の「参加者」→「ご自身の名前にカーソルを合わせて”詳細” or ご自身の名前をタップ」→「名前の変更」で変更が可能です。
 - ・ 事務局で変更させていただく場合もございますが、ご了承頂けますようお願いいたします。

【ワークショップ開催前に投影したスライド】
※予め注意事項をお伝えしておくスムーズに開催することができます。

開催までに何を準備すればいいの？

<開催までの準備 チェックリスト>

☒ 参加者の検討

- ❑ まず、連絡窓口（部署、担当者）を決めて参加者の検討をしましょう。企画・調整を地域で就労支援に取り組む団体等に依頼することも有効です。
- ❑ 人数は5～10人程度。地域の実情に応じて人数が多くなっても構いません。人数が多い場合は5名程度のグループを複数つくりましょう。
- ❑ 就労支援に関わる多くの部署・関係機関の参加が望ましいです。同一部署に偏らないようにしましょう。
- ❑ 初回は行政関係者等、日頃から就労支援に取り組む支援者で行うのが望ましいです。支援者の間で就労支援の対象者像が共有できたら、地域企業の経営者や人事担当者にも参加してもらいましょう。さらに次の段階で、企業間で取組みを学び合い、ネットワークを構築することも考えられます。

☒ 日程

- ❑ 参加者の業務の状況等を踏まえ、参加しやすい日程にしましょう。
- ❑ 1回あたりの開催時間は2時間程度です。

☒ 開催方法

- ❑ 対面での開催のほか、WEB会議サービスを用いたオンライン開催も可能です。

☒ （対面による開催の場合）場所の確保

- ❑ 参加者にとって利便性の高い場所を確保することが重要です。
- ❑ 役所の中だけではなく、商工会議所や駅前の会議室など地域に開かれた場所で開催することも検討しましょう。駐車場の有無についても確認が必要です。
- ❑ 会場には、机と椅子のほか、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーンがあると便利です。

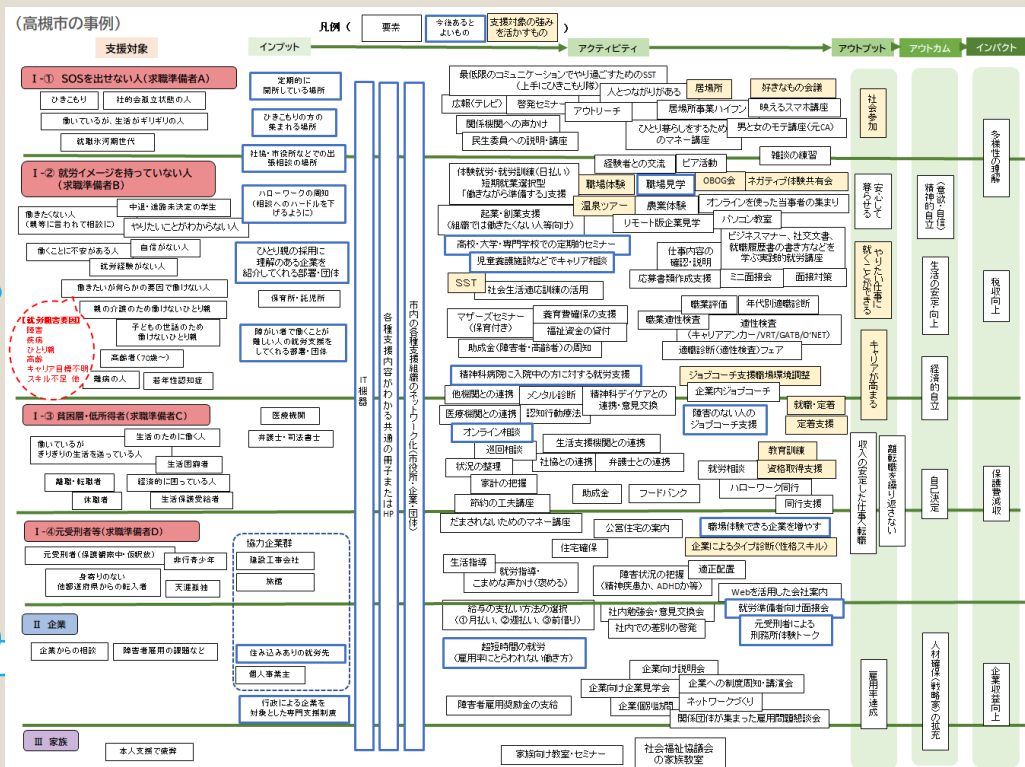
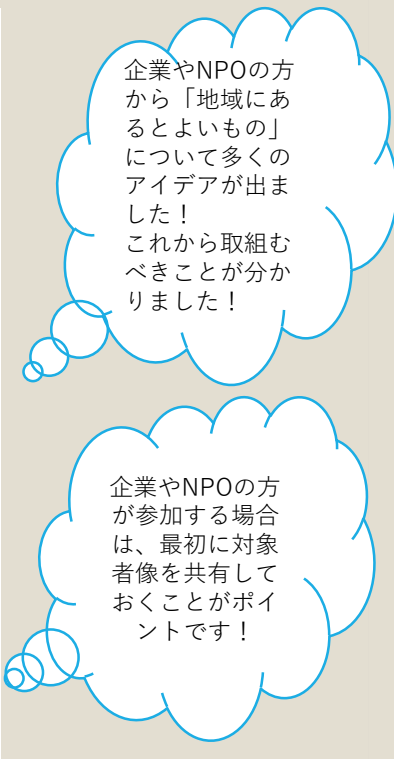
☒ （オンラインによる開催の場合）参加者のネットワーク環境の確認

- ❑ 事前に参加者が用いるツール（パソコン、タブレット、スマートフォン）を確認しておきましょう。
- ❑ 事前に接続テストをしておくことが望ましいです。

☒ 備品

- ❑ 文具（模造紙、付箋、ペン）、感染症対策グッズ（マスク、消毒液等）

- 以下は、2019年度からワークショップの開催に協力してくださった千葉県木更津市、大阪府高槻市の皆様の意見をまとめたものです。
- いずれの自治体でも、様々な部署や関係機関、地域の企業や団体の方が参加してくださったことで、多くのアイデアができました。今後の取組みにもつながっています。



まず、対象者本人を大きく4つに分けて議論を始めました！

2回目から就労支援に積極的な企業の方が参加し、議論が深まりました！

ワークショップに参加した方からの声



連携ができていると考えていた部署や関係機関が集まってワークショップをしましたが、有益な取組みにもかかわらず、全く把握できていなかったものもありました。今後、定期的に同様の取組みをしていきたいと考えています。

福祉分野だけでなく、商工労政分野、農林水産分野など、視点や視野が異なる参加者からの情報やアイデアを共有できました。今後もこうした分野横断的に意見を交換する機会があるとよいと思いました。

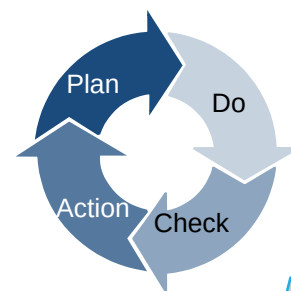


自分が考えていなかった意見をもらえることで、新たな行動につなげられるのが良かったです。ワークショップをきっかけに、商工会議所と連携したり、地元の神社での1日職場体験ができるようになりました。

対象者の早く就職がしたいという気持ちと、人員不足の企業を繋ぎ合わせる形で、職場体験事業を行っている取組みに良い刺激をもらいました。



- 地域の就労支援も、他の施策と同様にPDCAサイクルを構築する必要があります。定期的にこのワークショップでロジックモデルを活用することで、日々の支援の実践（Do）の中検証（Check）をすることができます。ワークショップでの検討結果を次の改善（Action）や計画（Plan）につなげていくことが重要です。
- ワークショップを通じてできたネットワークを活かし、その後もつながり続けましょう。そうすることで、ワークショップが地域の中で活かされ、地域の活性化につながります。



< 本件に関するお問い合わせ先 >

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社 担当：経済政策部 小川
TEL：03-6733-1000（代表）

※このリーフレットは、令和2年度社会福祉推進事業「生活困窮者の就労支援を通じた地域づくりに関する実践的調査研究事業」の一環として作成しています。